

別記様式（第3条関係）

会 議 録（１）

会議の名称	第２２回桶川市地域公共交通会議
開催日時	令和８年８月２１日（金） （開会）午前１０時００分・（閉会）午前１０時５４分
開催場所	桶川市役所本庁舎５階 全員協議会室
主宰者の氏名	桶川市長 小野克典
議長の氏名	桶川市副市長 礒崎秀夫
出席者氏名 （委員）	第１号委員：礒崎秀夫 第２号委員：山口昌男、鈴木義和 第３号委員：熊谷恵一、佐藤 学、高橋俊夫 第６号委員：渡邊広美、北村あやこ、谷健治 第８号委員：松本一也 第９号委員：岡村敏之、鈴木孝広、大嶋清泰
欠席者氏名 （委員）	第２号委員：田沼健一、山科和仁、鈴木貴大 第４号委員：関根 肇 第５号委員：藤田 貢 第６号委員：岩崎隆志、大隅俊和 第８号委員：鳥羽隆史 第９号委員：児玉憲一、川田敬之、内野 匡
事務局職員 職名及び氏名	環境経済部：部長・辻本潤一、副部長・矢代雅之 安心安全課：課長・加納秀一、副課長・森 克裕、係長・蓑 佑樹 主任・庄子征允、主任・渡邊美希、主事補・松本 友
会 議 事 項	議 題
	【確認・報告】
	（１）前回会議の振り返り及び会議録の確認 （２）市内循環バスの利用状況について （３）試験運行ルートに関する意見等について （４）乗降調査について
	【協議】
	（１）道の駅への循環バスの乗り入れについて （２）本格運行への切り替えについて
	【その他】
	（１）７５歳以上の高齢者の運賃の変更について （２）上尾市内循環バス「ぐるっとくん」への乗継運賃について （３）今後のスケジュールについて

配布資料	
○ 次第	
○ 座席表	
○ 委員名簿	
○ 桶川市内循環バスルート図	
○ 資料 1	前回会議の振返り・第 2 1 回会議録
○ 資料 2	市内循環バス利用状況
○ 資料 3	乗降調査結果
○ 資料 4	道の駅への循環バスの乗り入れについて
○ 資料 5	7 5 歳以上の高齢者の運賃の変更について
○ 資料 6	上尾市内循環バス「ぐるっとくん」への乗継運賃について
○ 資料 7	今後のスケジュール

会 議 録（２）

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	開会宣言。 委員紹介、事務局紹介。 本日の会議は委員２５名の内、１３名の出席。 過半数出席のため、要綱に基づき会議は成立となる。
会長	会長挨拶
議長	会議は原則公開となっているが、本日の会議で非公開とする事項はあるか。
事務局	なし
議長	本日の会議は全て公開とする。 本日の傍聴希望者はいるか。
事務局	傍聴希望者なし。
議長	本日の会議の会議録署名人は、谷 健治委員にお願いします。
委員	承諾
議長	【確認・報告】（１）前回会議の振返り及び会議録の確認
事務局	説明 ※資料１
	～ 意見等なし ～
議長	【確認・報告】（２）市内循環バスの利用状況について
事務局	説明 ※資料２
	～ 意見等なし ～
議長	【確認・報告】（３）試験運行ルートに関する意見等について

事務局	説明
第 6 号委員	東 3 0 と東 4 0 の利用者が減少しているが、この地域の人口の増減との因果関係があるのか。
事務局	手元に資料がございませんので、御指摘のあった内容については、今後分析していきたい。
第 9 号委員	今後、本格運行に切り替えというか、実証を終了することになると思うが、先ほど第 6 号委員からも指摘があったとおり、非常に利用者が少ない便もあり、それはその地域の固有の事情で利用者が少ないのか、それとも便として使い勝手がよろしくなくて、地域の方から支持をいただけていないのか。利用者が落ち込んでいる系統を利用者が増えている系統へ回すなどして、個々には色々と調整できると思うので、本格運行へ切り替わっても、引き続き検討してほしい。
議長	【確認・報告】（４）乗降調査について
事務局	説明 ※資料 3 ～ 意見等なし ～
議長	【協議】（１）道の駅への循環バスの乗り入れについて （２）本格運行の切り替えについて
事務局	説明 ※資料 4
第 7 号委員	令和 9 年 4 月 1 日から本格運行へ切り替えると説明があったが、どの運行系統を本格運行にするのか。また、どのようなスケジュールで運輸支局へ手続きするか教えてほしい。
事務局	令和 9 年 4 月 1 日の本格運行に向けて、バス停の名称変更や運賃に関するアンケートを実施予定である。運輸支局への手続き期間も考慮し、年内には改めて会議を開催したいと考えている。なお、全ての系統が本格運行の対象である。

第6号委員	本格運行に切り替えるにあたり、利用者にはどのような違いがあるのか。また、神明地区と朝日地区のルートは利用者が非常に少ないため、多分ぐるっとくん（上尾市内循環バス）で上尾方面に行っていると思うが、その因果関係をもう少し丁寧に調べてほしい。
事務局	指摘があった地区の利用状況などに関しては、今回示した数字にも表れているとおり、実際減少などが見られている。本日は、地区ごとの人口の統計資料を持ち合わせていないため、詳しい状況は伝えられないが、地域公共交通会議の本分としては、利用状況に応じて、今後バス停やルートを適宜見直していくという基本的なところに立ち返りたいと考えているため、本格運行に切り替えるといっても、固定化せずに、基本に立ち返って、利用状況の見直しを本格的に進めていくということで考えている。 また、今回本格運行に切り替えることにより、利用者には大きな変化はないが、令和9年4月1日に本格運行に切り替えるにあたり、バス停の名称変更を併せて進めていくため、時刻表がわかりやすくなるなど、若干の変化が生じると考えている。
議長	【その他】（１）75歳以上の高齢者の運賃の変更について
事務局	説明 ※資料5
第9号委員	質問が3つある。1つ目は、無償化の目的で、移動支援策で循環バスの利用促進を図るとあるが、色々な自治体がこのように福祉の観点での移動支援や割引その他を実施しているところとしていないところがある中で、どれが正解ということではなく、行政として具体的にどのような目的を持ち、どのような効果を想定しているかが非常に重要だと思う。その観点から市の政策として具体的にどのような効果を想定しているかを、既に議会の答弁などで示しているのであれば教えていただきたい。 2つ目は、仮にそのようなものがあるとき、何らかの形で数値として検証をでき得るものかどうか教えていただきたい。 3つ目は、75歳以上は現状でも100円で循環バスを利用できるが、さらに100円を割り引くというところで、市の支出としてどれくらいの金額を想定していて、それが循環バスの総収入のどの程度になるかを教えていただきたい。
事務局	まず、高齢者の利用促進による効果だが、2段階あるものと考えており、1つは、社会参加の促進と高齢者、特にご高齢の方の社会参加の促進をもって健康増進に繋げていくというところが、高齢者福祉計画の中でも設定されており、こちらに基づいて考えている。

	2つ目は、実際の数値、利用者の検証については承知しているが、その検証の仕方、乗降調査も職員が1日バスに乗って、実際に乗り降りする方々をカウントするという方法をとっているが、なかなか負担が大きいため、実際その効果をこういった形で検証していくかという方法については、今後も協議していきたいと考えている。 続いて3つ目は、概算で350万円程度の影響が出ると考えている。
議長	全体のどれくらいになるのか。
事務局	利用者数としては、川越観光自動車(株)の循環バス利用者の概数が1万4,000人程度、(株)協同バスの循環バス利用者の概数が2万9,000人程度で、ともに延べ人数になるが、合わせて4万4,000人程度となっており、割合としては、全体の利用者数に対して23%程度になると考えている。
第9号委員	75歳以上で20%超えというのは、結構大きな数字だと理解した。ここから先は紹介とお願いになるが、高齢者の運賃割引を実施しているところと実施していないところとある。無料でバスを利用している方がどれくらいいるかとか、数値を取っているところもあると伺っている。県外になるが、例えば東京都の路線バスにはシルバーパスというのがあり、10月からICカード化をして、どこの区間を乗車しているかも全部データを取っている。横浜市等もそのような形にしており、今後データを検証していこうと思うが、交通政策として具体的に何ができるかっていうところまで立ち戻っていかないと、福祉部門の方はそこまでやらないのではないかと思う。社会参加については、バスを降りた後の話になるため、そこは福祉部門でしっかりデータを取ってもらう。交通としては、なかなか乗降調査ができないということではあるが、何らかの形で検証をしていくと良いと思う。あとは、350万円という金額が大きいのか小さいかについては、色々と意見があり、答えもないと思う。ただ、全体の市内の公共交通利用者の中で、循環バスが占めている割合が、小さくもなければ、決して大きくはないということで考えると、何で循環バスだけなのかという意見はあり、100円引きが無料になるということは、むしろ大きくなっているのだから、そのような観点からも、市全体の高齢者の支援として循環バスだけを対象にしていくことが良いのかというところも論点だと思うし、それは色々と部内で検討された結果だと認識しているが、それは引き続き市としてどうすべきなのか、市民も含めて議論をしていただきたいというのがお願いである。
事務局	利用状況の検証は、循環バスを長く続けていくためにも非常に重要なことと承知している。ICカード化という提案をいただいたが、どうい

	った形で検証していけるのか。今は見た目などで利用者を推測しながら分類している状況になっており、経費との兼ね合いも見ながら、どういったことが考えられるか協議させていただきたいと思っている。また、民間バス等の路線バスとの兼ね合いについても、市の循環バスが特別手厚く独自に行っているサービスではなく、他の自治体や路線バスでも、高齢者、高齢者の中でも特に後期高齢者に当たる方々への支援策はそれぞれに講じられていると伺っているため、その均衡については、今後も検討していきたい。
第6号委員	先ほどの1万4,000人と2万9,000人は、高齢者の人数ですか。先ほど第9号委員が発言したとおり、20万人で23%ということは、460万円になる。往復の方も含めたが、大雑把すぎると思ったので、現在の数字に置き換えて、きちんとしたものを出していただきたい。それから、このルートだけではなく、先ほどの福祉政策の中で、デマンド交通についても福祉政策の中で今後検討していくということだったが、その辺はどのようなになっているか報告いただきたい。
事務局	先ほど1万4,000人、2万9,000人と回答した数値だが、こちらの根拠は、現在把握できる100円で利用している方の数となっている。100円で利用している方は、75歳以上の方だけではなく、運転免許返納者や6歳以上の小学生が同じく100円で利用できるため、このような方も含まれた数字になっている。ただし、先ほど指摘があったところだが、細かく分類した統計・実証が非常に難しいため、多少余裕を持った概算として数字を計上していることにご理解いただきたい。デマンド交通については、循環バスに限らないところで、福祉施策、移動支援の中で、現在検討されていると伺っているため、今後適切なタイミングで報告したいと考えている。
議長	100円利用者のうち、高齢者の方が何%かいて、その割合だと概算で350万円になるということでしょうか。
事務局	100円利用者のうち、75歳以上の高齢者は、おおよそ8割程度と見込んでいる。
議長	【その他】(2) 上尾市内循環バス「ぐるっとくん」への乗継運賃について
事務局	説明 ※資料6

	～ 意見等なし ～
議長	【その他】（３）今後のスケジュールについて
事務局	説明 ※資料 7
	～ 意見等なし ～
議長	全体を通して他に意見等はあるか。
	～ 意見等なし ～
議長	意見等がないため、これで終了とする。 以上

令和 8 年 10 月 5 日

会議録署名人 谷 健 治